

令和6年度 南九州市ふるさと納税寄附金の活用実績

本市への心温まるご寄付ありがとうございます。

全国の皆様からいただきました寄附金は、貴重な財源として、本市のさまざまな事業に活用させていただいております。令和6年度に寄附金を活用して実施した事業の一部をご紹介します。

1 平和に関する事業

平和へのメッセージ from 知覧スピーチコンテスト 14,645 千円

「平和を語り継ぐ都市」として、世界の恒久平和を願い、平和へのメッセージを広く発信することを目的に実施されている事業です。全国から「命の尊さ・平和の大切さ」をテーマとした作品募集をし、平和情報の発信と平和推進事業の取組を紹介することができました。また、発表の様子をインターネットライブ配信することで、全国に広報・発信することができました。



平和会館企画展開催事業 1,375 千円

より多くの方々に来館いただき、特攻の史実を知っていただくため、知覧特攻平和会館の館内及び館外の企画展を実施することができました。

(実績：館内企画展3回，館外企画展1回)



2 福祉の向上に関する事業

子育てしやすいまちづくりプロジェクト事業 16,841 千円

地域子育て交流館において放課後児童健全育成事業，地域子育て支援拠点事業，一時預かり事業及び子育てしやすいまちづくりプロジェクト事業等を実施することで子育て支援の充実を図ることができました。



子ども医療費助成事業 50,000 千円

南九州市の子ども（高校卒業まで）の保険適用分を助成する制度で、疾病の早期発見、早期治療を促進し、健康の保持増進、医療費の自己負担軽減を図り、子育て世帯へ支援を行うことができました。

保育所等整備事業 6,297 千円

既存施設の老朽化及び保育ニーズ多様化に対応するため、令和元年度より保育所等整備計画に基づき、順次保育所等の整備をおこなっています。保育所等の施設整備にかかる経費の一部に寄附金を活用することで、安全向上及び地域の保育の質・量の向上を図ることができました。



3 地域の活性化に関する事業

移住定住促進事業 9,387 千円

民間事業者との連携により、休日における移住相談体制を整えることができたほか、市の移住ポータルサイト「CONNE（コンネ）」を構築し情報発信力を強化することができました。また、空き家のイベント・セミナーを企画し空き家の利活用を促進したほか、市内3地区の空き家実態調査を行い、潜在空き家の所有者との交渉につなげることができました。



知覧茶葉古道プロジェクト事業 3,188 千円

「誰もが知る知覧茶」をコンセプトに認知度及びブランド価値の向上を図ることを目的として、ブランドブック「茶本」やプロモーションコースターの作成を行いました。



武家屋敷体験型コンテンツ導入事業 5,977 千円

知覧武家屋敷庭園群を楽しく学べる AR コンテンツを導入し、併せて看板も更新することができました。



公民連携によるパークマネジメント 9,000 千円

民間（地域）と行政の連携による公園管理運営の取組みとして、番所公園を拠点とした活動・交流のためのソフト・ハード（ツリーハウス）整備が完了し、新たなパークマネジメントを構築することができました。



地域活動活性化事業 4,021 千円

地区活性化などをテーマにした新たな取組みを行う地区公民館の活動に対して表彰をし、さらに賞金を市内の事業者で消費してもらうことにより、地区公民館活動の促進、地区の絆のさらなる強化及び市内事業者の活性化を図ることができました。



4 教育の推進及び文化の保全に関する事業

かわなべ青の俳句大会 4,512 千円

俳人福永耕二の業績をしのび児童生徒が俳句づくりを通じて、故郷の美しい風情を愛し、日本語の美しさに対する理解を深めることができました。



学校給食用地場産物活用事業 9,385 千円

市内の小中学校に通学する児童生徒が、地場産物について理解を深め郷土愛を育むため、献立を工夫し、地場産物を食材とした給食を提供することができました。

提供食材等：かわなべ牛、川辺メロン、知覧茶フィナンシェ、からいも餅、いちご、知覧茶かるかん等



5 その他の事業

学校給食費補助事業 72,399 千円

子育て世帯の経済的な負担軽減を行い、子育て支援を推進するため、市内市外の小中学校等に通学する児童生徒の保護者に対し、学校給食費の全額を補助することができました。

(補助対象児童生徒数：小学生 1,463 名，中学生 763 名)



特定不妊治療費助成事業 2,240 千円

公的費用助成制度はあるものの非常に高額であり経済的にも精神的にも大きな負担となっている不妊治療費を助成することによって、子どもを産み育てやすい環境を整え、夫婦の経済的な負担の軽減を図ることができました。